

## 令和7年度 きゅうり技術情報 No.2

大船渡農業改良普及センター  
電話：0192-27-9918  
FAX：0192-27-9936



- ① (ハウス) 収穫開始以降は、かん水量を増やしましょう。
- ② (露地) 高さ30 cmまでの雌花と側枝は摘除し、草勢を確保しましょう。
- ③ (病害虫) 病気は、黒星病、斑点細菌病、べと病、害虫は、アブラムシ類、ハダニ類に注意しましょう。

### 1 ハウスきゅうり

#### (1) かん水、追肥

1日のかん水量の目安は、**収穫開始以降は 2.0L/株**です。特に、収穫開始以降は、きゅうりの必要水分量が大きくなります。曲がり果や空洞果が発生するなど果形がよくない場合は、かん水量を増やしましょう。

また、晴天時、**乾燥する場合は、積極的に通路散水し、ハウス内の湿度を維持**しましょう。

追肥は、果実収穫開始ごろから積極的に行いましょう。追肥量の目安は、**収穫量 800 kg (160 ケース) /10a ごとに窒素成分で 2.5~3.0 kg**です。

#### (2) 温度管理

**日中の最高気温が 30℃ を超えないように**、側窓や入口を開けて換気を行いましょう。

#### (3) 整枝管理・摘葉

充実した側枝の発生を促すためには、側枝に光を当てることが重要です。主枝摘心期以降は、**下~中段の葉が特に混みあってきます**。曇雨天を避け、収穫作業と合わせて**随時摘葉**しましょう。

## 2 露地きゅうり

### (1) 定植後1か月の初期管理

生育初期に十分に根を発達させることは、長期に安定生産するためには重要なポイントです。これは、ホモプシス根腐病対策としても非常に重要です。

定植後、本葉10枚ころまでに、**高さ30 cm (5~6節目) までの雌花と側枝は早めに摘除**し、主枝の草勢を確保します。**主枝の着果位置は、高さ50~60 cm (8~10節目)**とし、それ以下には着果させないようにします。

### (2) かん水

**定植後1週間程度は、活着促進のために株元を乾かさないうにかん水**をしましょう。活着の目安は、葉の枚数が定植時の倍の枚数になり、巻きひげが太く張ってきたころです。活着が確認されたら、かん水を控え、根を深く張らせましょう。

### (3) 摘葉

本葉が15~16枚になったら、主枝の下段2~3枚程度摘葉します。草勢維持のため、株当たり一度に2~3枚以内を原則とし、過度な摘葉とらないように注意しましょう。

## 3 ほ場の排水対策

例年、ハウス、露地ともに排水不良が原因と思われる生育不良が見受けられます。**排水をよくすることで、根が発達し、長期安定生産につながります**。また、十分に根を発達させることは、ホモプシス根腐病対策としても非常に重要です。

水田転作の場合は、水路等の点検整備を行い、ほ場外からの水の侵入を防ぐとともに、降雨後の排水を促すための**明きょ・排水溝の設置や高うね栽培**を行いましょう。

## 4 薬剤散布のポイント

- (1) 6月はアブラムシ類、黒星病、斑点細菌病、7月はアブラムシ類、ハダニ類、べと病に注意しましょう。
- (2) 防除暦を参考に、定期的に薬剤散布を実施しましょう。農薬を使用する際は必ず農薬ラベルを確認し、使用基準を遵守してください。
- (3) 薬剤散布では、アーチの内側と外側の両側から葉の表裏、下位葉まで十分な量の薬液がかかるように散布しましょう。特にアーチ上部は、薬剤が付着しにくいいため注意が必要です。
- (4) 病気が蔓延した後では薬剤の効果が低くなります。病気が疑われる葉は見つけ次第、摘葉し、発生が少ないうちに特別散布を実施しましょう。

病虫害名	6			7			8			9		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
アザミウマ類 (ハウス)												
ハダニ類												
アブラムシ類												
べと病												
うどんこ病												
黒星病・斑点細菌病												
炭疽病・褐斑病												

□ : 発生時期      ■ : 重点防除時期

図1 病虫害の発生時期の目安(アザミウマ類以外は露地での発生時期)

## 5 主な病虫害の特徴

### (1) 黒星病

発病適温は 17～20℃前後と低温性の病気です。定植時や収穫期の後半に降雨が続くと多発します。特に生育初期に多発すると、被害が大きだけでなく、後半まで防除が必要となるので、予防散布に努めてください。



図2 黒星病の葉

## (2) 斑点細菌病

発病適温は 20~25℃、多湿条件下で発生しやすい病気です。露地栽培では、6月、9月ごろに発生が多く、降雨が続くと発生が助長されます。



図3 斑点細菌病の葉 拡大した病斑

## (3) ベと病

20~25℃の多湿条件下で発生しやすく、降雨が続く梅雨期が重点防除時期になります。肥切れや成り疲れなど、草勢が衰えると発生が増えるため、肥培管理に注意してください。

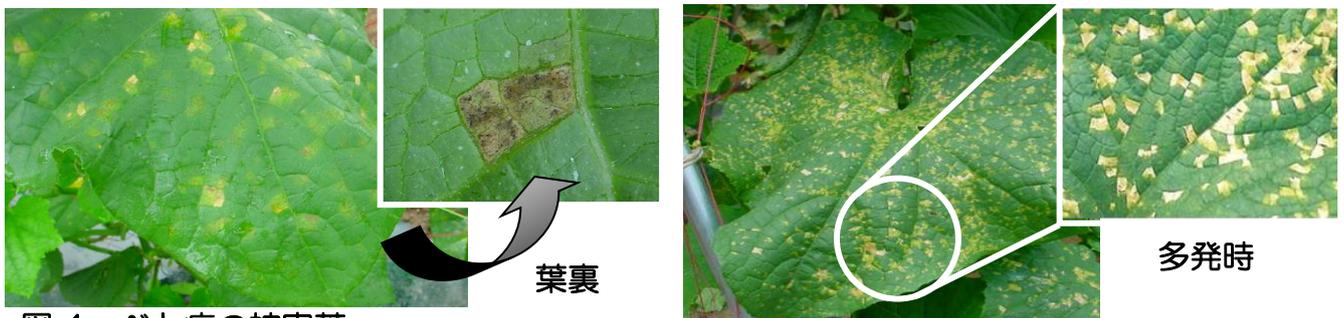


図4 ベと病の被害葉

## (4) ハダニ類

ハダニ類は多発させると防除が困難になり、著しく草勢が低下します。圃場周辺の雑草等から侵入してくるので、初期の寄生部位である下葉を定期的に観察し、発生があれば速やかに防除してください。



図5 ハダニ類



図6 ハダニ類の被害 (左: 葉、右: 果実)

## (5) アブラムシ類

5月から9月まで発生があり、夏期に発生が増加します。生育前期は生長部の若い葉やつる、生育後期は展開葉や花に寄生し、吸汁加害します。被害が増加すると生育が妨げられるため、発生があれば速やかに防除してください。



図7 葉裏に寄生したアブラムシ

## 6 ホモプシス根腐病対策 **管内で発生が確認されています！**

- (1) 収穫開始から8月にかけて発生が多くなります。収穫初期では、日中に**葉が萎れ**、夕方に回復します。萎れと回復を繰り返すうちに、徐々に**下葉から枯れ上がり**ます。
- (2) **土壌伝染性で空気伝染はしません。汚染圃場の土が人や機械を介して移動し伝染します。**
- (3) 対策は、**土壌消毒、土壌 pH の改良(目標 pH 7.5)**です。
- (4) 他の生産者の圃場を訪問する際は、**靴カバーの使用**や**ビニール袋で靴を覆う**等、病原菌の拡大防止に努めましょう。



日中は葉が萎れる



病気が進行し、枯れた株

図8 ホモプシス根腐病が発生したほ場



感染初期（細根脱落部が褐変）



感染末期（黒色の偽子座が形成）

図9 ホモプシス根腐病の根の病徴

**写真のような症状が見られた方は農協または普及センターまでご相談ください。**

### ★いわてアグリベンチャーネットメールサービス会員募集中

農作物技術情報や農村地域の情報を幅広く提供する岩手県公式サイト「いわてアグリベンチャーネット」のメール会員を募集します。

登録方法は以下のホームページをご覧ください。

URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/maillinglist.html>

### ★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動実施中

農薬を安全かつ適切に使用するために、農薬ラベルでの使用基準の確認、使用履歴の記帳を徹底しましょう。